



環境省沖縄奄美自然環境事務所
慶良間自然保護官事務所

座間味事務室

〒901-3402

沖縄県島尻郡座間味村字座間味109
座間味村役場2階

渡嘉敷事務室

〒901-3501

沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷183
渡嘉敷村役場2階

連絡先

TEL. 098-987-2662 FAX. 098-987-2663

この冊子は座間味村ホエールウォッチング協会、
渡嘉敷村ホエールウォッチング協会にご協力いただき、作成しました。

National
Parks
of Japan



け ら ま し ょ とう ざ ま み と か し き
慶良間諸島国立公園 座間味村・渡嘉敷村
ホエールウォッチング



冬にしか体験できないことがある 沖縄の国立公園、慶良間諸島へ

30を超える島々が連なる慶良間諸島。

2014年3月5日、31番目の国立公園として指定されました。

サンゴの日に誕生した慶良間諸島国立公園。

座間味村と渡嘉敷村で形成される公園区域は、そのほとんどが海域です。

それぞれの島が目視できるほど近い距離にあり、

島々に囲まれた内海には、美しいケラマブルーが広がります。

外海に比べると内海は穏やかで、1年を通じて透明度を保っています。

慶良間諸島の島々は、山地が海岸まで押し迫り、

波風に浸食された断崖や入り江が多いリアス海岸。

遠浅で穏やかな天然ビーチが点在します。

1～2月にかけて桜が咲き、山間の起伏を生かして

渡嘉敷島では毎年2月に「とかしきマラソン」が行われ、

座間味島では1～3月に「ホエールウォッチング・フェスタ」が開催されます。

山と海の自然と景観に魅了される慶良間諸島。

冬の最大の魅力といえば、ロシアやアラスカからザトウクジラが帰ってくることです。

慶良間諸島の島々と周辺海域は、
日本を代表する優れた自然の風景地として保護されています。

慶良間諸島の島々

慶良間諸島で最も大きな渡嘉敷島と、東西に広がる座間味島、

阿嘉島や慶留間島などの有人島から、外地島や安室島などの無人島まで

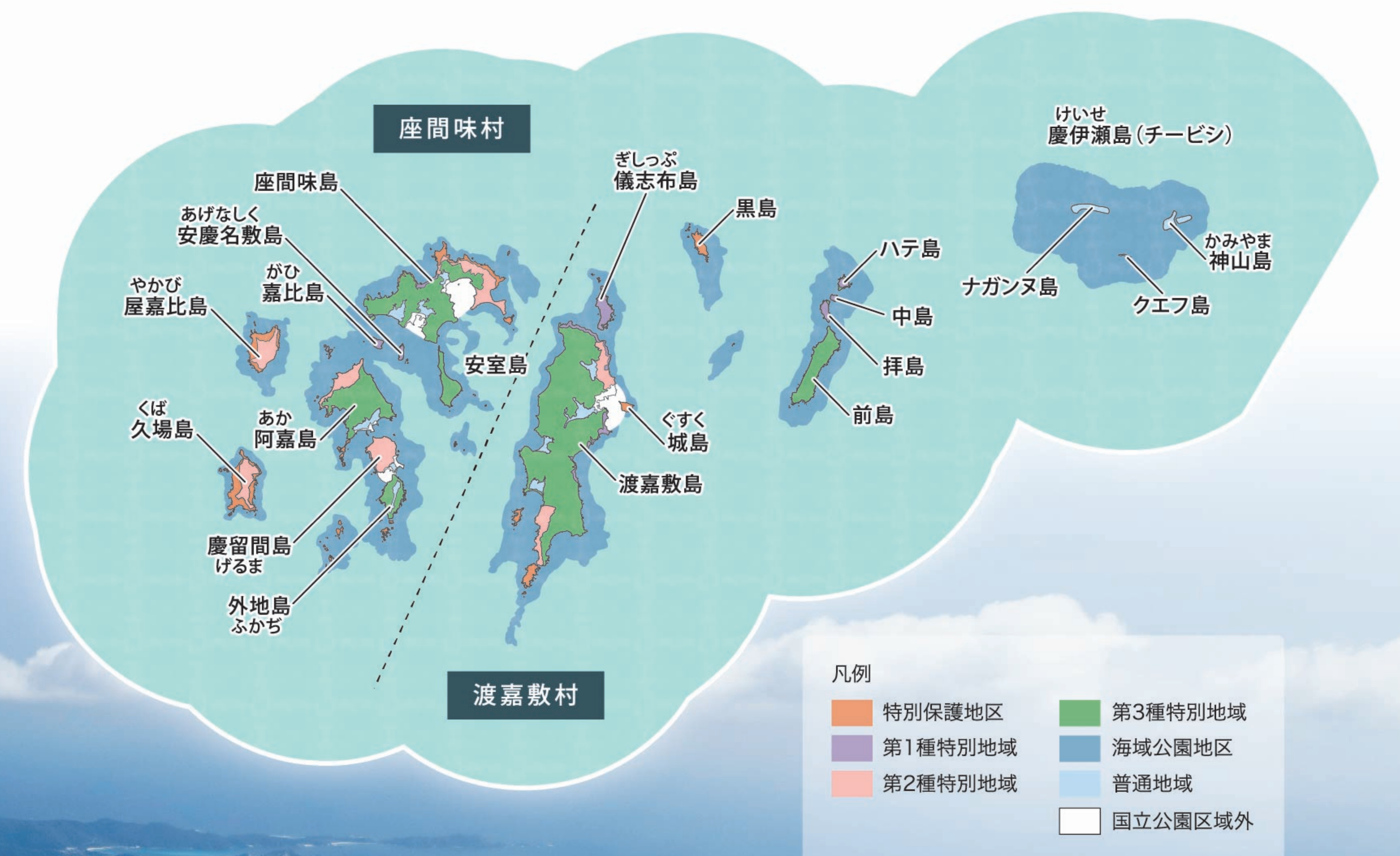
大小30以上もの島々から形成されています。

沖縄本島的那覇・泊港からフェリーや高速船などで訪れることができ、

慶良間諸島への旅は、船旅から始まります。

慶良間諸島国立公園区域

慶良間諸島国立公園面積
陸域：3,520ha、海域：90,475ha（うち海域公園地区：8,290ha）



目次

CONTENTS

慶良間諸島国立公園 ホエールウォッチング

座間味村・渡嘉敷村



- 01 | 慶良間とザトウクジラ
- P05 ____ 世界有数のケラマブルーの海
- P07 ____ 慶良間とザトウクジラのつながり

- 02 | 慶良間のホエールウォッチング
- P09 ____ 慶良間諸島
ホエールウォッチングのあゆみ
- P13 ____ 私たちが大切にしていること
- P15 ____ 私たちがめざす未来
- P17 ____ 私たちが取り組んでいること
- P19 ____ 慶良間だからできること
- P21 ____ 運営に関わる人々の魅力
- P23 ____ 慶良間のホエールウォッチングを
支える人々と仕組み
- P25 ____ 慶良間の自主ルール
- P28 ____ Q & A

- 03 | ザトウクジラについて
- P29 ____ 特徴と生態・行動パターン
- P31 ____ 尾びれで見分ける個体識別

INFORMATION

- P33 ____ 慶良間諸島へのアクセス
- P34 ____ 慶良間のホエールウォッチングに参加する

ZAMAMI



© 環境省

TOKASHIKI



© 環境省

慶良間の海が感動を誘う 多島海がつくりだす、ケラマブルーの世界

サンゴが高密度に広がる慶良間諸島の海域。

内海や沿岸は水深が浅く、高い透明度を誇っています。

太陽の光が燦々と降りそそぐ海底には、テーブル状・枝状・角状・塊状など
これまでに約250種類の造礁サンゴが確認されており、
養分の少ない透き通った海に、豊かな生態系を育む一翼を担っています。

多彩な海の生き物が生息し、海に溶け込むように島々が連なります。
海上から見渡す島々の風景も、展望台から眺める多島海の風景も
陸と海が一体化した壮大な景色が感動を誘います。

日本でも有数の美しい海域景観、 それが「ケラマブルー」です。

そして、慶良間諸島の島々に囲まれた内海は、
波風を避ける島陰が多く、穏やかな海域なので
ザトウクジラの繁殖にも適した場所なのです。



作成者: masahiro - stock.adobe.com



© 渡嘉敷村ホエールウォッチング協会



作成者: 隼人増田 - stock.adobe.com



作成者: masahirosuzuki - stock.adobe.com



© 環境省



作成者: dam - stock.adobe.com

デバスズメダイ、黄色が特徴的なスダレ
チョウチョウオなど、多彩な魚たちがサ
ンゴに守られ、サンゴ礁を住処にしています。

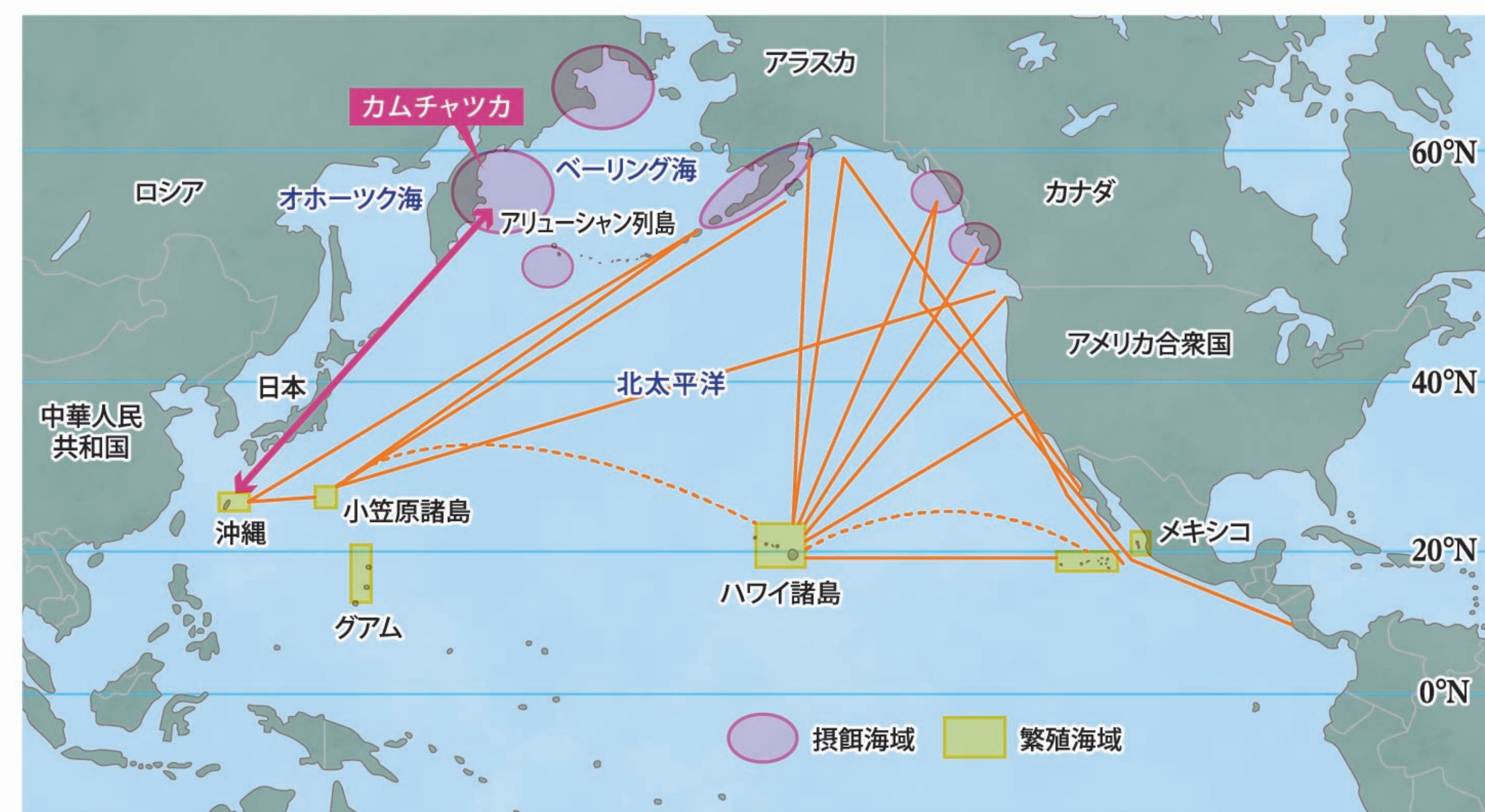
ザトウクジラの繁殖海域

沖縄の冬は、慶良間のクジラと一期一会

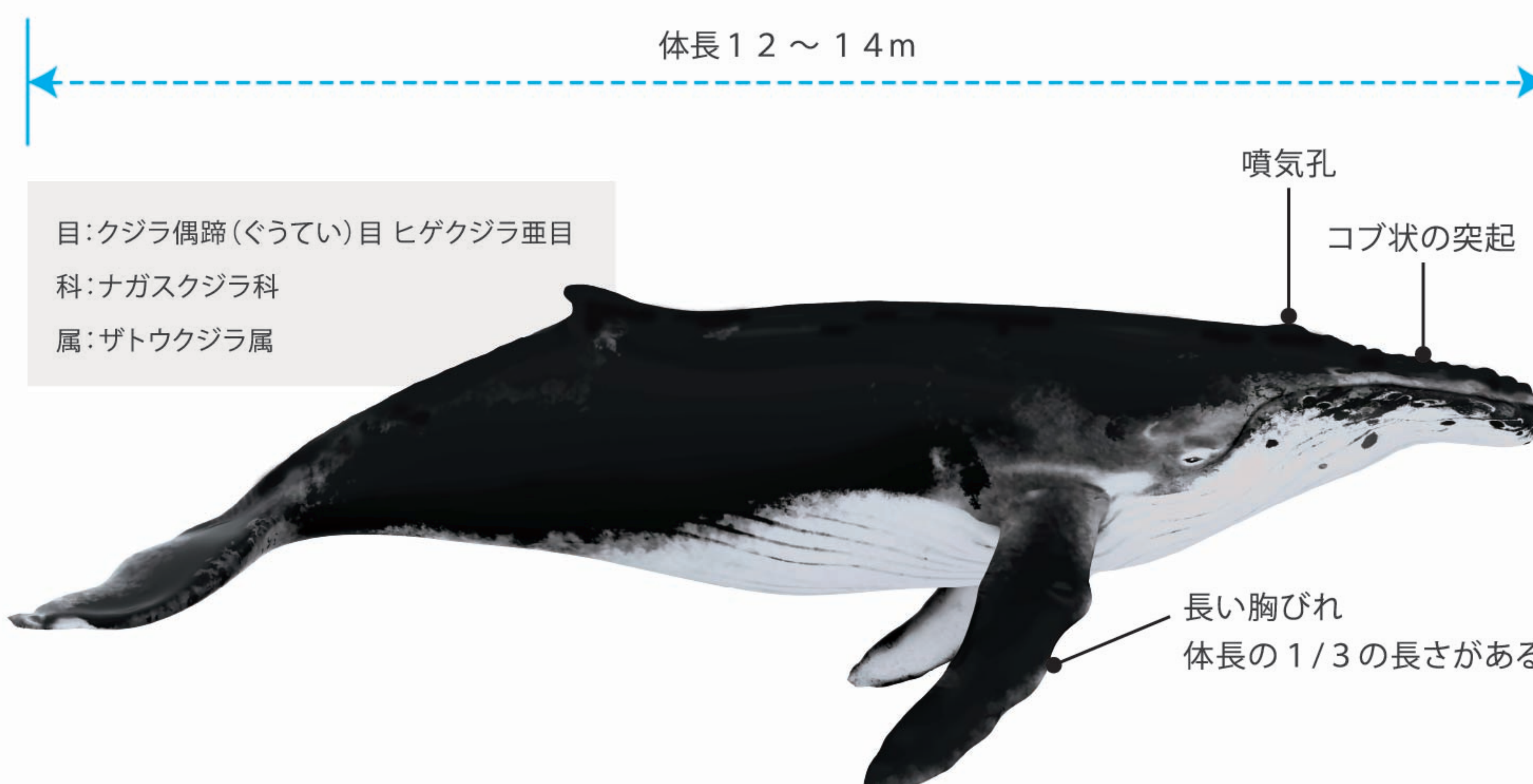
冬になると、慶良間の海に帰ってくるザトウクジラの姿に、

島の人々が「おかえり」という気持ちになります。

ザトウクジラは人と同じくらい寿命が長く、地球規模で季節に合わせて回遊し、毎年、片道数千kmの旅をしながら生涯を過ごします。北太平洋では、夏はロシアやアラスカなど高緯度の寒い海域で餌を獲って栄養を蓄えて、冬は沖縄やハワイ、メキシコなど低緯度の暖かい海域に南下して繁殖や子育てをします。



北太平洋のザトウクジラの分布と回遊（DARLING and MORI 1992 より改変）



ザトウクジラは、毎年12月頃から慶良間諸島を含む沖縄周辺に帰ってきてオスとメスが出会いを求めて集まったり、約1年の妊娠期間を経てふるさとの海で出産した母クジラが子育てをしたり、命を未来へつなぐ営みが、3月末頃まで見られます。ザトウクジラには固執性があり、毎年のように慶良間諸島に帰ってくる馴染みのクジラもいます。

なぜ、沖縄と慶良間諸島にザトウクジラが集まるのか？

島に囲まれた慶良間の内海は海が穏やかで子育てにいい条件が揃っているため、親子クジラが多く集まり、交尾の機会を求めて、それ以外のメスクジラもオスクジラも集まってきます。

クジラにとっての過ごしやすい条件とは!?

- ✓ 島に囲まれた波静かな海域のため、泳ぎの未熟な子クジラでも過ごしやすい
- ✓ 風向きが変わっても、どこかに波風を避けられる島陰がある
- ✓ 静かな島陰で安心してゆったりと授乳や休息ができる
- ✓ すぐ沖合いにも曾根などザトウクジラが好む浅い海域が点在し、母クジラにとっては、時に子育ての弊害になるオスクジラと居場所を分けることができる
- ✓ 水深が浅く、まだ深く潜れない子クジラの育成には最適な環境

だから安心して子育てができる

クジラが安心できる、クジラが守られる海域。

慶良間諸島の内海は、こういった条件が揃っていたからザトウクジラにとって重要な繁殖海域の一つになったのです。

KERAMA WHALE WATCHING HISTORY

1985年 3月

座間味村の海域で、2頭のクジラを確認

現在も座間味村でホエールウォッチングの船長を務める宮村幸文さんが、1985年3月に座間味村の海域で2頭のザトウクジラに遭遇し、あまりの驚きに「あぎじゃびよー（※1）」と叫んだそう。その発見が座間味村内で話題となり、喜び勇んだ村民がクジラを探索するようになったのが、慶良間諸島ホエールウォッチングの始まりである。

※1：沖縄の方言で驚いたときに使う言葉

1989年 2月

環境保全団体「WWF JAPAN」がザトウクジラ調査のため、慶良間諸島に訪訪

世界的に有名なクジラの研究者から、村内の船長らは指導を受け、調査にも参加した。この調査により、慶良間諸島周辺の海域がザトウクジラの繁殖海域だと判明する。

1989年 4月

座間味村の有志が集まり、小笠原諸島を視察

ハワイのホエールウォッチングを参考にした小笠原諸島の自主ルールや組織体制などに学び、冬の観光としてホエールウォッチングの事業化を目指す。

2022年 12月

座間味村の内海に「母子クジラのサンクチュアリ」を設定 ※P26にて詳しく解説



2023年 11月

一般社団法人 渡嘉敷村ホエールウォッチング協会設立

・座間味村ホエールウォッチング協会を参考にした自主ルールの策定



慶良間諸島周辺でホエールウォッチングを楽しむ船（長谷和典さん提供）

座間味島周辺でホエールウォッチングを楽しむ船（長谷和典さん提供）

〔沖縄タイムス2023年12月6日掲載〕

クジラ観察協会設立

渡嘉敷の業者 保護目指し連携

谷和典さんは、座間味島はクジラの里のイメージを大切にしたいと話し、つなげていくやり方を目標にしている。

〔南米新聞部・島屋〕

1985～

1990～

1960年～

捕鯨終了

沖縄近海の海域で捕鯨が終了したのは、1960年代のこと。絶滅が危惧されたザトウクジラを保護するためだったが、沖縄に生息するクジラの姿はすっかり見かけなくなり、いつしか昔話になっていた。

1991年 3月

座間味村ホエールウォッチング協会設立

- ・自主ルールの策定 ※P25にて詳しく解説
- ・個体識別の調査を開始

1992年 2月

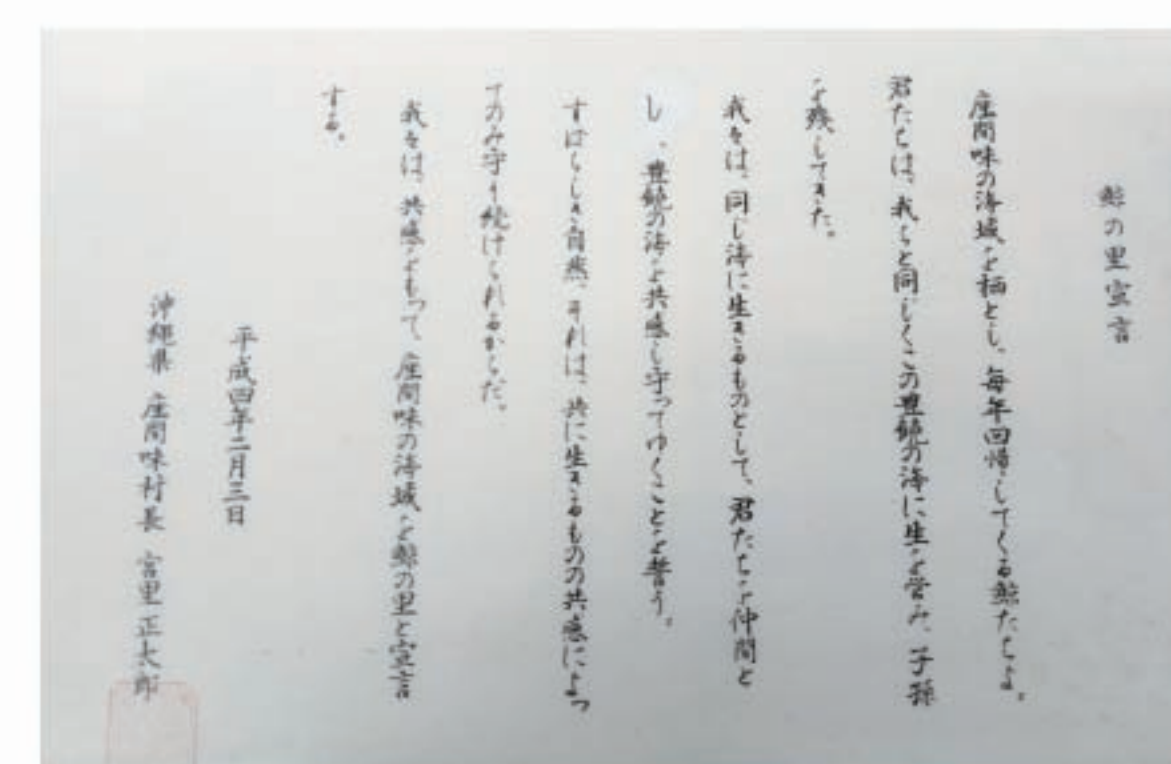
座間味村が「鯨の里宣言」をする

高速船「クイーンざまみ」を利用してホエールウォッチングのツアーを開始する。

1997年

探鯨システムを開始

※P21にて詳しく解説



〔鯨の里宣言〕



〔沖縄タイムス1993年4月4日掲載〕

2010～

2014年 3月

慶良間諸島が国立公園に指定される

「慶良間の海守る」国立公園指定 地元、決意新た

【渡嘉敷・座間味】慶良間諸島が5日、国立公園に正式指定されたことを受け、渡嘉敷、座間味両村の関係者からは「県内外にアピールしたい」など喜びの声が上がった。また「国立公園の名に恥じないよう、海を守り続けること、決意を新たにす声もあり、「保護」と利用の両立へ向けた取り組みが始まる。午前9時半すぎ、渡嘉敷、座間味の両村役場には環境省那覇自然環境事務所植田明浩所長から、電話で正式指定の報告があった。渡嘉敷村役場の屋上から記念の横断幕が掲げられると、職員から拍手が湧き起こった。座間味島長村長は「村内外に国立公園をアピールし、多くの観光客が来るといい」と話した。

座間味村ではダイビング協会が協力し、オニヒトデの駆除を約15年前から実施している。平田春吉会長も「これまで活動が報われた。国立公園の名に恥じないよう、素晴らしい海を守っていく」と決意を語った。

座間味村ホエールウォッチング協会の大坪弘和事務局長は「指定の理由にクジラの繁殖海域も含まれたことに驚いた。今後もクジラに優しいホエールウォッチングを続けたい」と話した。

〔琉球新報2014年3月6日掲載〕

2016年 2月

座間味村ホエールウォッチング協会が、一般社団法人へ移行

環境省と日本エコツーリズム協会が共催した「第11回エコツーリズム大賞」にて優秀賞を受賞。



撮影：遠藤美弥子

座間味港西側にあるクジラのモニュメント。

今日も慶良間は クジラと共に



私たちが大切にしていること

クジラと人が共に生きる、 世界に誇れる ホエールウォッチング

クジラが安心して帰ってくる海
これが慶良間ブランド。

慶良間諸島ではクジラの保護を最優先に考えた自主ルールがつくられ、親子クジラが安心して子育てできる「ゆりかご」のような海が守られている。

100年先もクジラと人が共生していくには、地域の努力だけではなく、ツアー参加者と共にクジラを守り、学び、未来へ繋ぐことが必要となるでしょう。

クジラにやさしいホエールウォッチング

クジラへの ストレスを減らす

慶良間はクジラたちが育つ「ゆりかご」でありつづけ、いつまでもこの海に帰ってきてもらうために、出産や子育て、交尾の邪魔をせず、自然な姿を見守るウォッチングツアーを提供。

ツアー参加者にも ストレスを与えない

探鯨員がクジラを見つけてから船を出すため、効率よくスムーズにクジラに遭遇でき、悪天候等で船に乗れなくても、陸からクジラを見ることが可能。船長・ガイドとの交流も楽しめる。



作成者:jukucho - stock.adobe.com

We are Whale Lovers クジラのゆりかご 愛のカタチに逢いに行く

雄大な姿に魅了される慶良間諸島でのホエールウォッチング。

私たちもクジラの親子のように、ゆったり寄り添い、温かく見守る時間を大切にしています。大海原に広がる内海の「ゆりかご」で包み、心地よい波に揺られながら、大きな愛を育んでいく。クジラを見に行くのではなく、逢いに行くというクジラ愛が、まさに「We are Whale Lovers」なのです。

※内海でのウォッチングは極力少なくしております。

私たちがめざす未来

100年先まで持続可能な クジラと人が共存できる海へ

多くのクジラが安心して帰ってくる海を目指して、クジラの生態や行動を学び、年々少しずつ変化する海の状態や気候による影響なども汲み取りながら、慶良間諸島ではホエールウォッチングを「観光資源」という視点だけでなく、人とクジラの「共生」として捉えています。

クジラの子育てに適した環境づくりと 繁殖海域としての役割を担い続ける

- 慶良間諸島に多くのクジラが安定して帰って来るよう、親子クジラの「ゆりかご」を維持するためにも「母子クジラのサンクチュアリ」を守り続ける
- 繁殖海域としての環境を維持し、クジラにとっての故郷を存続させる

*「母子クジラのサンクチュアリ」については、P26 にて詳しく解説

次世代へつなぐ挑戦、 100年先まで持続可能な ホエールウォッチングの仕組みづくり

- 世界水準でもある、クジラにやさしい「自主ルール」を維持し、持続可能なホエールウォッチングを目指す
- 世界が認めるクジラが帰る場所として、探鯨員や船長・ガイド、協会会員が連携して、高い価値を生み出すツアーを創造する
- 探鯨員、船長、ガイド、協会会員がさらに結束。学術調査にも協力するほか、講習や研修などを通じて、ガイド解説・操船スキルを継承していく

海も陸も、観察スポットと学びの場へ

- 海上の船からだけでなく、陸からもクジラを観察できる環境を充実させる
- 自然環境を保護する大切さを知ってもらい、陸からクジラを観察しながら学びが得られる自然観察ツアーの提供を目指す

*自主ルールについては、P25 にて詳しく解説



撮影：遠藤美弥子

私たちが取り組んでいること

クジラの保護活動から 生まれた信頼関係 慶良間の人々とクジラの 絆を未来へつなぐ

持続可能な世界トップレベルのホエールウォッチングを目指し、自然保護と持続可能な観光の両立を大切にしています。クジラと人が共に生きる未来のために、「守る」「伝える」を使命として、この想いを次世代へつなぎます。

自主ルールを守り、 信頼と安全を最優先する

- クジラとの信頼を築き続け、慶良間諸島の「自主ルール」を遵守してクジラが安全に過ごせる海域を存続させる
- お客様の安全を確保し、安心して参加できる世界に誇れるホエールウォッチングを実現する

* 自主ルールについては、P25 にて詳しく解説

「待つホエールウォッチング」の 価値を伝える

- クジラから船に会いに来てくれる環境をつくり、
「クジラは待って楽しむもの」という概念を伝えていく
- 探鯨システムの価値を知ってもらい、探鯨員と船長・ガイドが連携する
意義を伝え広めていく

お客様に応援されるクジラの保護活動を 次世代へつなげる

- 慶良間諸島の人々がクジラを愛するように、お客様にも賛同される
クジラの保護活動を推進する
- ホエールウォッチングを楽しむことでお客様の理解を深めてもらい、
クジラを守る仲間やクジラのファンを増やす

* 探鯨システムについては、P21 にて詳しく解説



© 渡嘉敷村ホエールウォッチング協会

慶良間だからできること

環境にやさしいルールがもたらす 心が豊かになるクジラとの出会い、 迫力と感動を味わう特別な体験

環境に優しい自主ルールのもと、クジラを愛して理解する村民たちがクジラとの信頼関係を築いてきた歴史とともに、船長や探鯨員の連携が「クジラにやさしいウォッチング」を実現しています。

その思いを紡ぎ、そっと見守る親子クジラとの遭遇や貴重なツアーの体験を通して、学びある「クジラの物語」へと導きます。

陸と海で連携した世界に誇る ホエールウォッチング

- 山からの探鯨システムを導入し、探鯨員がクジラ探索の重要な役割を担う
- 探鯨員と船長が連携することでルール適用海域で効率よくクジラを発見でき、ウォッチング船を分散させてクジラへの負担を軽減する



© 渡嘉敷村ホエールウォッチング協会

探鯨員

座間味村と渡嘉敷村に複数ある展望台から海域全体を見渡しながらかクジラを探索し、クジラの正確な位置や様子をウォッチング船の船長に無線で伝えて船を誘導します。クジラに警戒心を与えず、船の分散を促す重要な役割を担う。

人とクジラの関係性が生む、特別な体験

- クジラから船に寄ってくる「たっくわり」という行動は、人や船が信頼されている証でもあり、海からのご褒美のような特別な体験である
- 個体識別によって、クジラの成長や移動距離、沖縄への来訪年や個性などを把握しており、ホエールウォッチングの活動にも反映されている
- 野生動物でありながら、特定のクジラに毎年のように会える希少性も魅力のひとつである



© 座間味村ホエールウォッチング協会

たっくわり

長年の自主ルールの努力でクジラが船を信頼し、クジラから船に寄ってくることもある。これを沖縄の方言で「たっくわり」といい、くつつく（ひつつく）を意味する。

個体識別

ザトウクジラは尾ビレの模様が1頭ずつ違い、慶良間諸島ではそれぞれのクジラにIDを振り分けて個体識別を行い、クジラの成長や移動距離、沖縄への来訪年や個性などを把握している。

迫力と感動を味わう体験とメリット

- 少人数制かつ、小型船ならではの臨場感と迫力を味わえる
- 地域の歴史や自然を語れるベテラン船長やガイドがいてこそ、ツアーが盛り上がる
- お目当ての「クジラの行動パターン」に出会えなくても、船長やガイドの話を学びがあり、楽しめる
- ウォッチングポイントが沿岸から近く、移動距離が短いため、船酔いのリスクが少ない

魅力を伝える立役者たち 山と海でつながるコミュニケーション

クジラにやさしいウォッチングを実現、 重要な役割を担う「探鯨員」



撮影：遠藤美弥子



© 座間味村ホエールウォッチング協会

慶良間諸島では、陸と海とで連携した探鯨システムを実施しています。それは複数の展望台に「探鯨員」を配置していること。探鯨員の朝は早く、ホエールウォッチングのツアー出航前から山に登り、座間味村と渡嘉敷村に複数ある展望台から海域全体を見渡しなが半日から一日中もの間、クジラを探し続けます。目印はクジラの潮吹き、ブローです。クジラを発見すると、ウォッチング船の船長にクジラの位置や様子を無線で明確に伝えて船を誘導する重要な役割です。

できるだけ多くのクジラを見つけ、1群のクジラに集中しないよう船を分散させたり、親子クジラはできるだけそっとしておき、メイティング（※1）や2頭のおとなのクジラの群れに誘導したりして、クジラを保護する役目も果たし、山の探鯨員と海の船長・ガイドが常に連携を取っています。こうした山と海をつなぐコミュニケーションがあってこそ、世界に誇れる「クジラにやさしいウォッチング」を実現できるのです。探鯨員はザトウクジラの行動や特性をよく理解し、お客様やクジラに対する安全性や自主ルールが守られている環境を支えています。

※1：オスのクジラたちがメスクジラをめぐって競い合う集団のこと

常連客のファンも多い、個性豊かな「名物船長」



クジラ愛が深い船長たちは、探鯨員からクジラの位置や様子を伝える無線が入ると、クジラにストレスを与えないよう自主ルールを厳守しながら熟練の技術でウォッチング船を操船します。30年以上の実績を持つ大ベテランの船長もいて、名物船長には常連客のファンも多くいます。トークが面白かったり、沖縄の方言が交じる緩やかな会話が飛び交ったり、名物船長の存在は、慶良間諸島ホエールウォッチングの魅力のひとつです。

クジラの生態に詳しく、安全を管理する「ガイド」



ツアーの安全を管理しながらお客様をサポートする、勉強熱心なガイドもツアーを盛り上げます。クジラの生態や様子をわかりやすく解説しながら、クジラの習性を見抜いて次の行動を予測します。「このクジラはブローの間隔が18分。もうすぐ息継ぎをしに海面に上がってくる」など、知識と経験がなせる観察眼に驚くことでしょう。ホエールウォッチングの楽しさを演出する立役者です。

村民からも協力を得て 座間味と渡嘉敷の連携が可能にしたこと



一般社団法人
座間味村ホエールウォッチング協会



一般社団法人
渡嘉敷村ホエールウォッチング協会

1991年の設立以来、「座間味村ホエールウォッチング協会」では慶良間諸島における冬の観光産業としてホエールウォッチングを事業化してきました。

その活動に賛同して、2023年11月には「渡嘉敷村ホエールウォッチング協会」が設立され、両村の協会会員が情報共有しながら、クジラの保護を目的に策定した自主ルールを守り、ザトウクジラの調査・研究への協力を推進しています。

それぞれのホエールウォッチング協会には、船長やツアー関係者のほか、村内の宿泊施設や飲食店なども加盟しており、船からのウォッチングを全面的に禁止した「母子クジラのサンクチュアリ」区域では、漁業協同組合やダイビング協会などの関係者、フェリーや高速船までもが協力してルールを守り、島ぐるみでクジラにやさしいホエールウォッチングを支えています。

クジラ愛が深い船長たち、クジラの生態に詳しいガイドたち、そして最大の貢献者である「探鯨員」といったメンバーも集い、座間味村と渡嘉敷村のホエールウォッチング協会が協力し合いながら、探鯨員と船長で情報共有や連携を深め、より広範囲からクジラを見守っています。

*「母子クジラのサンクチュアリ」については、P26にて詳しく解説

座間味村と渡嘉敷村の ホエールウォッチング協会が連携して可能になったこと

1 クジラを確認できる範囲が広がる

座間味村の西側は渡名喜島の手前まで、
渡嘉敷村の東側はチービシまで、快晴時には
慶良間諸島の海域全体をまるっと360°見渡せます。

2 探鯨員同士で情報共有、船長同士の連携

慶良間諸島の海域全体でクジラの位置を把握できると
探鯨員が船を誘導する際に、選択肢が増えて
より船を分散しやすくなり、船長同士の連携が
参加者とクジラの安全を守ります。

将来的には、次世代のガイドや船長を育てるために、慶良間の
認定ガイド制度や操船のスキルアップ講習などを整えながら
サポートを強化していきます。

そして、座間味村と渡嘉敷村のホエールウォッチング協会がともに
手を取り、協会会員と協力し合って、慶良間諸島から沖縄全体、
さらに奄美へと「クジラにやさしいウォッチング」の概念を広げて
いくことを目指しています。

1 | 協会会員と非会員に求めるもの

協会会員のボートは、必ずルールを守ること。

協会会員以外のボートには、ルールを守るよう協力を求めます。

2 | ルールの適用海域

座間味村の各島沿岸から10マイル(18km)以内の海域、
渡嘉敷村の各島沿岸から7km以内の海域において適用します。

3 | ルールを適用するクジラ類

ヒゲクジラ亜目(ザトウクジラなど)、およびマッコウクジラ

4 | ヨットやサバニ、カヤック、SUPなどの 無動力船を含む、船舶のルール

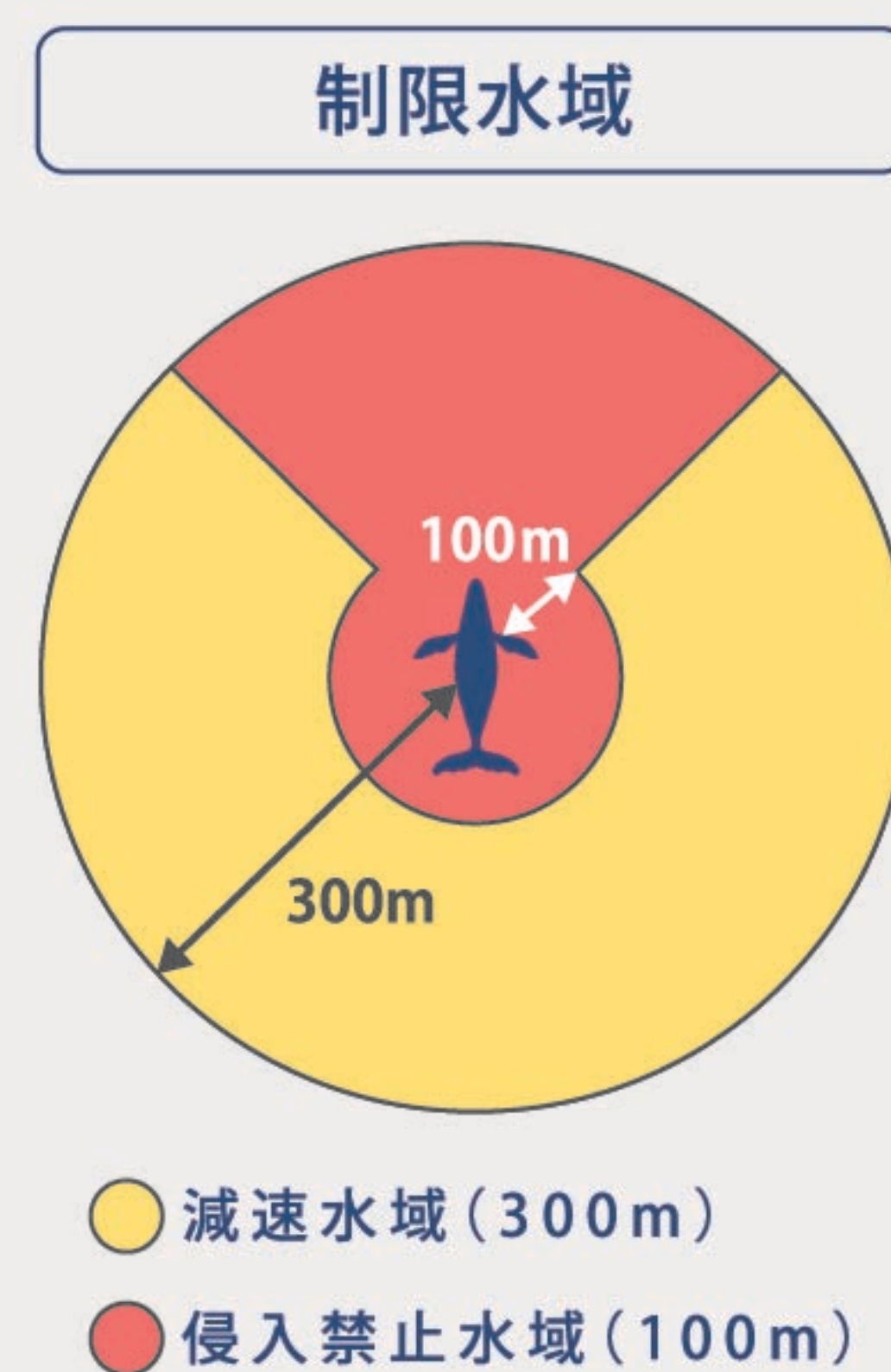
クジラの位置から300m以内を「減速水域」、クジラの位置から
100m以内を「制限水域」に設定します。

「減速水域」でのルール

- ・ホエールウォッチングボートは減速してクジラに接近する
- ・クジラの行動や進行方向を妨げるような操船をしない

「制限水域」でのルール

- ・船のほうからクジラに近づかない
- ・クジラから接近してきた場合、停船して制限水域から抜け出すまで維持する
- ・ホエールウォッチングボートは急発進、急旋回など急激な操船をしない



慶良間の ホエールウォッチング運営に関する 自主ルール

慶良間諸島の周辺海域でホエールウォッチングを行う際に大切な自然資源であるクジラの行動を妨げず、ザトウクジラの繁殖海域を保全することを目的として、座間味村・渡嘉敷村のホエールウォッチング協会が策定した自主ルールによる「ガイドライン」です。

5 | 時間の制限

1頭または1群のクジラに対して、2時間以内のウォッチングを原則とします。但し、親子クジラは、ウォッチング船全体で、午前・午後それぞれ1時間以内を厳守すること。

6 | 「母子クジラのサンクチュアリ」の設定

座間味島や渡嘉敷島の内海にあたる、一部の区域を
「母子クジラのサンクチュアリ」に設定しています。

「母子クジラのサンクチュアリ」区域内でのルール

全面的に船でのホエールウォッチングを禁止します。但し、調査目的の調査船は可能とし、必ず「調査船旗」を掲げること。

設定区域



座間味

阿真シル西～嘉比島西～嘉比島南～安慶名敷島南
～安室島漁礁ブイ～安室島



渡嘉敷

渡嘉敷港前の長岬から城(ぐすく)を結んだライン
から渡嘉敷港内

7 | ルール適用海域での禁止行為

クジラと一緒に泳ぐスイム、ダイビング、シュノーケリングなどの海面遊泳を含めて、クジラに対する「海中でのウォッチング」を禁止します。また、クジラの海中撮影も原則禁止です。

例外 クジラから船の間近に寄ってくる「たっくわり」

この状況下のみ、クジラを驚かさないように配慮した上で、船の縁からそっとカメラだけを海中に入れて、海中の様子を撮影することは許可しています。

クジラの鳴き声、それに類似した音を海中で発しないこと（但し、船舶が発する通常の動力音は含みません）

8 | 特例について

非営利による教育・調査・研究などでクジラ類に接近する場合は、事前に計画書を提出して協会の許可を受ければ可能とし、特例許可船は必ず「調査船旗」などの特例旗を掲げること。

その他に、必要な事項は協会規則委員会にて定めるものとします。



© 座間味村ホエールウォッチング協会

Q & A

Q.服装・持ち物について

サングラス

日差し対策用。晴れた日は海面から反射する光が眩しく感じることがあるため、目の保護としても役立ちます。

上着

防寒・防水対策ができるもの。船上は風が強く、雨や波しぶきを浴びることもあるので、ウィンドブレーカーやレインコートがあると安心です。

※ ライフジャケットの着用は必須です。

帽子

冬でも沖縄の日差しは強力です。風も強いので、あご紐付きの帽子がおすすめです。

ズボン

動きやすく、防寒・防水対策ができるものを着用ください。スカートや短パンでは危険です。

靴

スニーカーがベスト。船上は揺れて滑りやすいです。ヒールのある靴などの滑りやすい靴では乗船できません。

船酔い対策

船上はよく揺れます。2時間のウォッチングを十分楽しむためにも、乗船1時間前から酔い止め薬の服用をおすすめします。



所持品の防水対策

一眼レフカメラやスマホはビニール袋などで保護して海水から守りましょう。



Q.慶良間諸島のホエールウォッチング船「欠航の判断基準」について

- A.** ・風速10m/s以上、波高3～4m以上、視程300m以下の場合
- ・大雨や雷雨の予報、各種注意報や警報が発令された場合
- ・上記の基準で協会が「中止」と判断した場合

Q.陸からでもクジラが見えるのか

- A.** 見晴らしが良い展望台や沿岸の道路などから観賞できます。
- また、座間味村・渡嘉敷村ともに「母子クジラのサンクチュアリ」は沿岸から近く、陸からの観賞を推奨しています。

Q.慶良間諸島では、なぜホエールスイムを行わないのか

- A.** スイムでクジラを見るにはかなり接近するため、クジラに大きなストレスを与えることが研究で分かってきました。特に親子クジラとのスイムは授乳や休息の妨げになり、子クジラの健全な成長や親子の生存に悪影響を与える恐れがあり、クジラが安心して子育てできる海を守るために禁止しています。

クジラ探索の目印は「ブロー」 慶良間に回遊してくるザトウクジラ



作成者: nerthuz - stock.adobe.com

世界中の海に生息するザトウクジラは、季節ごとに餌場と繁殖場を回遊しています。北太平洋を回遊するザトウクジラは、夏は北の冷たい海域へと北上し、ロシアやアラスカ周辺などで餌を食べて過ごします。

冬は南の暖かい海域へと南下して日本の沖縄や小笠原諸島、ハワイやメキシコなどで繁殖や子育てをします。

ザトウクジラは「ヒゲクジラの仲間」

ザトウクジラの体長は12～14m、体重30～40tほどある哺乳類です。

慶良間のウォッチング船と同じくらいの大きさで、その特徴は頭部にある「こぶ状の突起」や「長い胸びれ」です。胸びれは、体長のおよそ3分の1の長さがあり、尾びれの幅も胸びれとほぼ同じ長さ。

歯の代わりに口の中に「ヒゲ板」があるヒゲクジラの仲間、採餌海域ではオキアミや小魚の群れを海水ごと捕らえ、ヒゲ板でこしとって食べています。下顎からお腹にかけて「ウネ」があり、捕食の際に役立ちます。尾びれのお腹側の模様やフチのギザギザの形状が1頭ずつ違い、その特徴を利用して慶良間諸島のホエールウォッチング協会では、ザトウクジラの個体識別をおこなっています。

ザトウクジラの行動パターン

ザトウクジラを観察していると、時に様々な行動をとっている姿を見ることができます。行動の目的はいろいろな説があって、古い皮膚や寄生虫を落とすためだったり、アピールだったり、威嚇だったり、気持ちの表現だったり、音でコミュニケーションをとっているのではないかなど、本当のところはよく分かっていません。

ぜひ、その時のザトウクジラの立場になって、何のためにその行動をしているのか、今はどんな気持ちでいるのかなど、よく観察して想像を楽しんでみてください。



クジラの噴気
ブロー

呼吸をするために海面まで浮上して吐く息、クジラの息継ぎです。3～5mほど白い息が吹き上がり、遠くからでも目立つため「クジラ探索の目印」になっています。



胸びれで海面をたたく
ペックスラップ

長い胸びれを海面から出し、次に海面に打ちつけます。体を横向きにして片方の胸びれで海面を叩いたり、仰向けになり両胸びれで交互に叩いたりします。



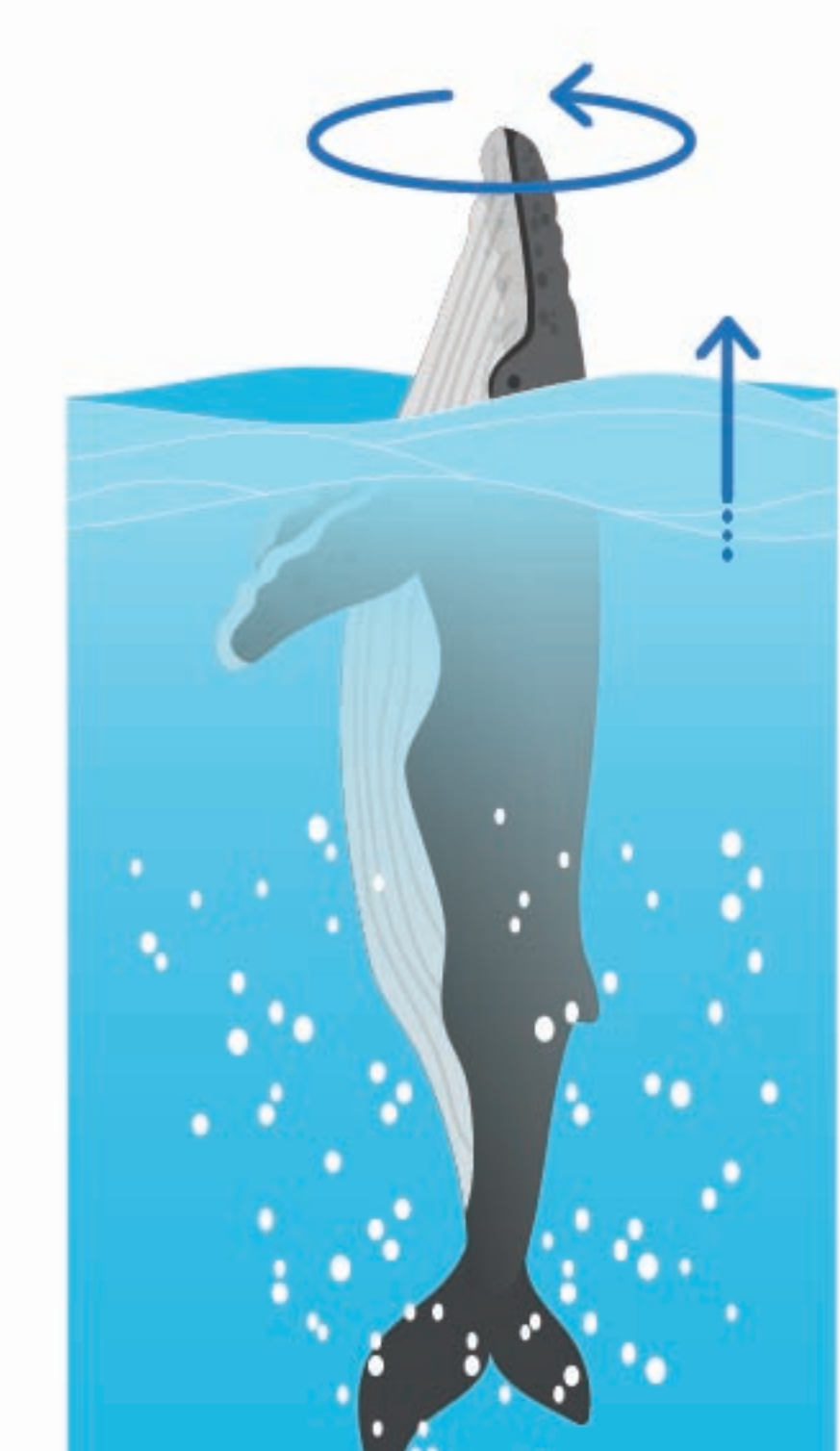
尾びれで海面をたたく
テールスラップ

背中からお腹を上にして尾びれを高く持ち上げてから振り下ろし、海面に叩きつけます。大きな音と水しぶきが上がります。



全身で大ジャンプする
ブリーチ

体長の3分の2、または全身が海中から飛び出す大ジャンプ。そのまま海面に落ちて大きな水しぶきが上がり、歓声が上がるほど迫力満点の光景です。



ギョロリと周囲を眺める
スパイホップ

海面付近に目の位置が来るように垂直に頭部を持ち上げて、キョロキョロと周囲を見回したあとゆっくり沈みます。



フルークアップダイブ
フルークダウンダイブ

息継ぎの後、尾びれを真つすぐに水面に持ち上げるフルークアップダイブ。尾びれを上げずに静かに潜っていくフルークダウンダイブ。次の息継ぎまで、5～20分ほど海中で過ごします。

ザトウクジラの個体識別

ザトウクジラは、尾びれのお腹側の模様やフチのギザギザの形状が1頭ずつ違います。人間の指紋のように識別・照合できる特徴を生かして座間味村ホエールウォッチング協会が、1991年設立と同時にザトウクジラの個体識別の調査に乗り出しました。

慶良間諸島の近海で確認されたザトウクジラの尾びれ写真を収集し、1頭ごとに「ZA-1」のようにIDを振り分け「個体識別」を行い、写真や詳しい情報を1頭ずつ記録しながら、ザトウクジラの成長や移動距離、個性や行動などを把握しています。

「このクジラは、ほぼ毎年回遊してくるね」
「慶良間諸島の海に、初めて来たクジラだね」

個体識別の総数は、現在1,800頭以上。

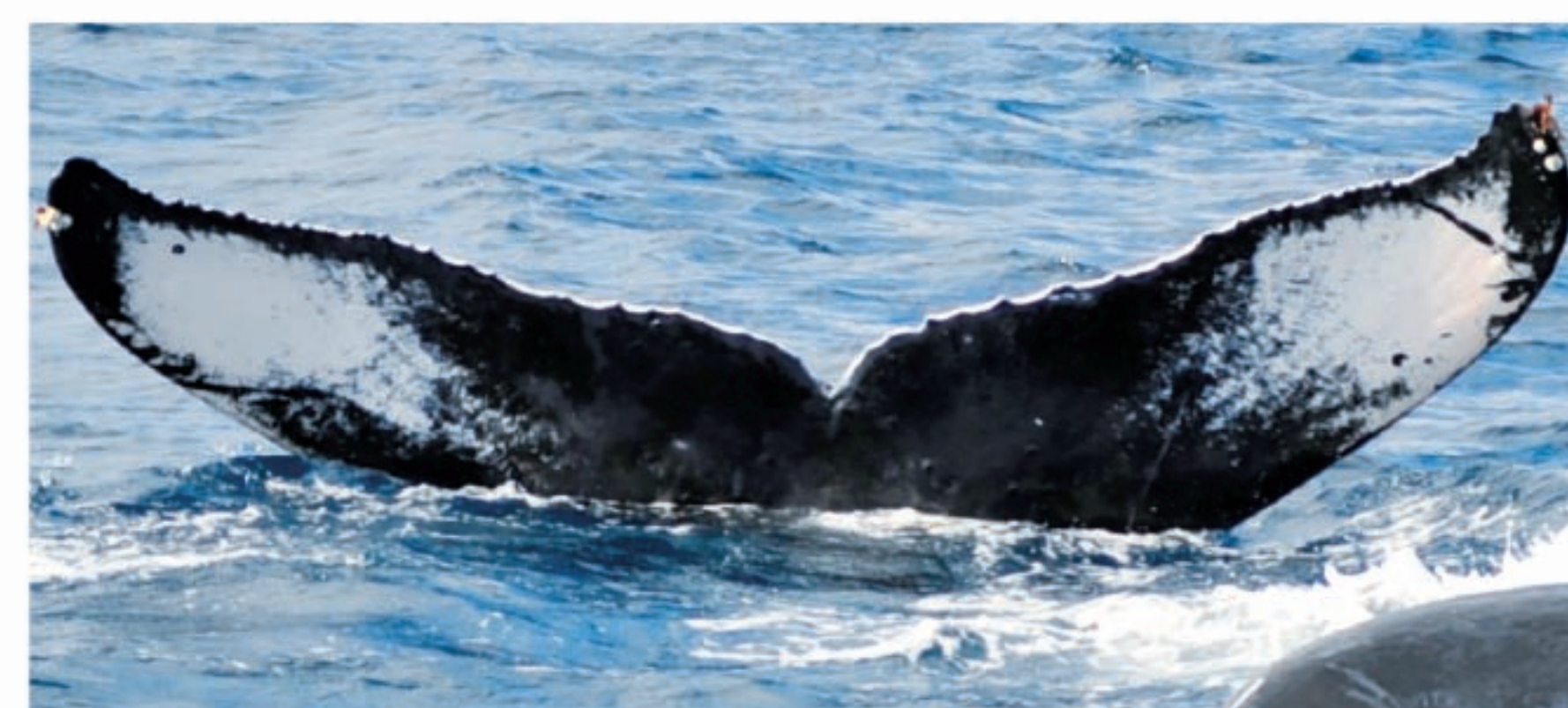
愛称がついたクジラもいて、ザトウクジラの生態を詳しく知る手がかりになり、ホエールウォッチングの活動にも反映されています。

ZA-8 Z (ゼット) ♂



1990年から30年以上確認されている座間味で最も有名なクジラ。尾びれの右側にくっきりアルファベットの「Z」が見えます。ひと冬に沖縄とフィリピンを往復した記録も。

ZA-177 ホワイトレディー ♀



胸びれの背側も白く、水中を泳ぐ姿が水面越しに青白く輝いて見えます。1999年からほぼ隔年、子どもを連れて帰ってきてくれる母クジラです。

ZA-186 すぬーピー ♂



真っ白の中の黒点が、スヌーピーの顔のように見えることから名づけられました。2000年から毎年のように確認されているオスのクジラです。

ZA-550 ラフィゾー (RuPhiZO) ♂



このクジラは北西太平洋の各地で確認されていて、確認された場所のロシア(Ru)、フィリピン(Phi)、座間味(Z)、小笠原(O)の頭文字をとって名付けられました。

ZA-609 あゆみちゃん ♀



2006年に初めて確認された当時、体が小さい赤ちゃんだったため、同じ年に座間味で産まれた子どもと同じ名がつけられました。

ZA-1451 スワン ♀



2015年に生まれたメスのクジラで、当時お母さんクジラと一緒にいるところを初めて確認され、その後、2024年に赤ちゃんクジラを連れて帰ってきてくれました。

ZA-1880 エイチ(H) ♀

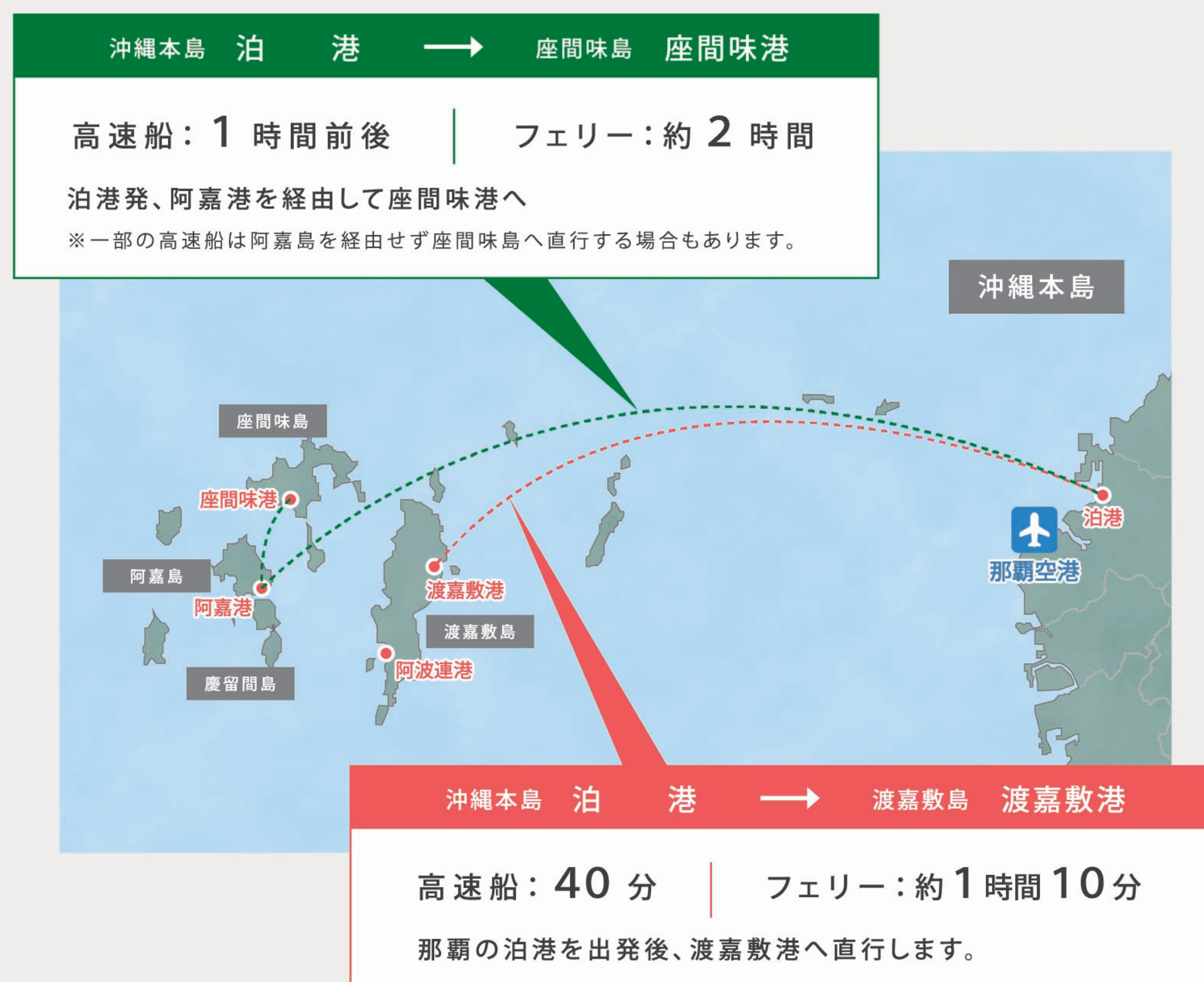


真っ白な尾ビレの右側に「H」の模様があることから、名づけられました。2025年に初確認された時に連れていた子クジラも真っ白なテール。親子でよくブリーチしていました。

ACCESS

那覇・泊港発のフェリーと高速船 船の旅で慶良間諸島へ

那覇空港から車で20分。那覇の「泊港」から慶良間諸島行きのフェリーと高速船が運航中。**(※事前予約がおすすめです)**



泊港でのチケット発券・受付は
泊港南岸のターミナル「とまりん」1階です。
高速船の乗船口は泊港北岸となり、少し離れています。
(高速船のみ北岸でもチケット購入可)

INFORMATION

慶良間のホエールウォッチングに参加する

ホエールウォッチングツアーのお申し込みは、各協会のサイトよりご確認ください。詳しくはQRコードより公式サイトへ。



一般社団法人 座間味村ホエールウォッチング協会

1991年の設立と同時に自主ルールを策定。その翌年、座間味村が「鯨の里宣言」をする。1997年から展望台に探鯨員を配置する探鯨システムを開始して、「クジラにやさしいホエールウォッチング」の活動は、第11回エコツーリズム大賞「優秀賞」を受賞する。2016年2月に一般社団法人へと移行した。

〒901-3402 沖縄県島尻郡座間味村座間味地先1
TEL:080-8370-1084
E-mail:zwwa1991@gmail.com
URL:https://zwwa.okinawa/



一般社団法人 渡嘉敷村ホエールウォッチング協会

2023年11月に設立。歴史が長い座間味村WW協会の意向に賛同し、その自主ルールに則って実施している。2艇のウォッチング船は、1日1便午前発のみ運航する。鯨海峡とも呼ばれる渡嘉敷村で船長・ガイド・探鯨員らが知識と技術を集結させて、小規模のメリットを生かした希少性とクオリティでお客様の満足度アップを目指す。

〒901-3501 沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷201
TEL:070-9214-7592
E-mail:info@wwtokashiki.jp
URL:https://www.wwtokashiki.jp/

